



ハボウキガイ（ウグイスガイ目ハボウキガイ科） *Pinna bicolor*

大きさ： 殻長 35cm

特徴： 大型の二枚貝類。足糸で底質中のレキなどに付着し、殻の一部を底質表面に露出する。

分布： 房総半島・能登半島以南：熱帯インド・西太平洋

希少性： **沖縄県レッドデータブック（絶滅危惧Ⅱ類）**

アマモ場や砂泥地に、殻頂（かくちょう）を下にして突き刺さるように生息する。プランクトンなどの浮遊物を鰓（えら）でこしとって食う。沖縄では6種が知られている。 多くは浅海性である。

まるで大木のように、干潟となった海草藻場に根をおろしているのが観察できる。

上部右側の写真は、干潟状に露出していた個体である。左側のとがった部分を下にして突き刺さっている。

干潟散策で、誤ってこの貝を踏まないように注意が必要である。

潮干狩りの際に、採集している人が見られ、一部食用にもなっているようである。